

1. 研究課題名： 脱温暖化社会に向けた中長期的政策オプションの多面的かつ総合的な
評価・予測・立案手法の確立に関する総合研究プロジェクト
(2050年脱温暖化社会プロジェクト)

2. 研究代表者氏名及び所属：
西岡 秀三（独国立環境研究所）

3. 研究実施期間：平成16年度～20年度

4. 研究の趣旨・概要

地球温暖化対策は、気候変動枠組み条約および京都議定書でその一步を踏み出したが、究極の目的である気候安定化のためには温室効果ガスの一層の排出量削減が不可欠で、日本においても、長期にわたる継続した取り組みの方向性をできるだけ早く提示することが求められている。具体的には、エネルギーに強く依存している現在の社会の在り様を大きく変えるための技術開発、ライフスタイルチェンジ、社会システムの新しい方向を示す必要がある。そのためには日本の研究者の英知を幅広く結集し、最新の知見に基づいた日本の中長期温暖化対策シナリオを構築することが必要不可欠である。

本プロジェクトでは、日本における中長期温暖化対策シナリオを構築するために、(1)全体像を把握する長期シナリオ開発研究とシナリオで取り入れる対策、施策、政策群の妥当性を検討する政策評価研究、(2)中長期温暖化対策のための削減目標を設定する判断基準検討研究、(3)都市対策、(4)IT導入効果、(5)交通対策など技術社会面での今後の変化・発展予測をふまえた種々のオプションを検討する技術・社会イノベーション統合研究を行い、2050年までを見越した日本の温室効果ガス削減のシナリオとそれに至る環境政策の方向性を提示する。

これらの分野に専門性を持つ研究グループが結集したシナリオ研究により、技術・制度・社会システムなどを横断した整合性のある実現性の高い中長期温暖化政策策定への貢献が期待できる。また、経済発展と両立した脱温暖化社会に到る道筋を提言することで研究者以外の人々の脱温暖化政策への関心を高め、社会システム・ライフスタイルの改善に役立つことが期待される。

5. 研究項目及び実施体制

(1) 温暖化対策評価のための長期シナリオ研究

(独)国立環境研究所、京都大学、立命館大学、(財)地球環境戦略研究機関、滋賀大学)

(2) 温暖化対策の多面的評価クライテリア設定に関する研究

(東京工業大学、(独)国立環境研究所、京都大学、青山学院大学)

(3) 都市に対する中長期的な二酸化炭素排出削減策導入効果の評価

(東京大学、(株)日建設計、成蹊大学)

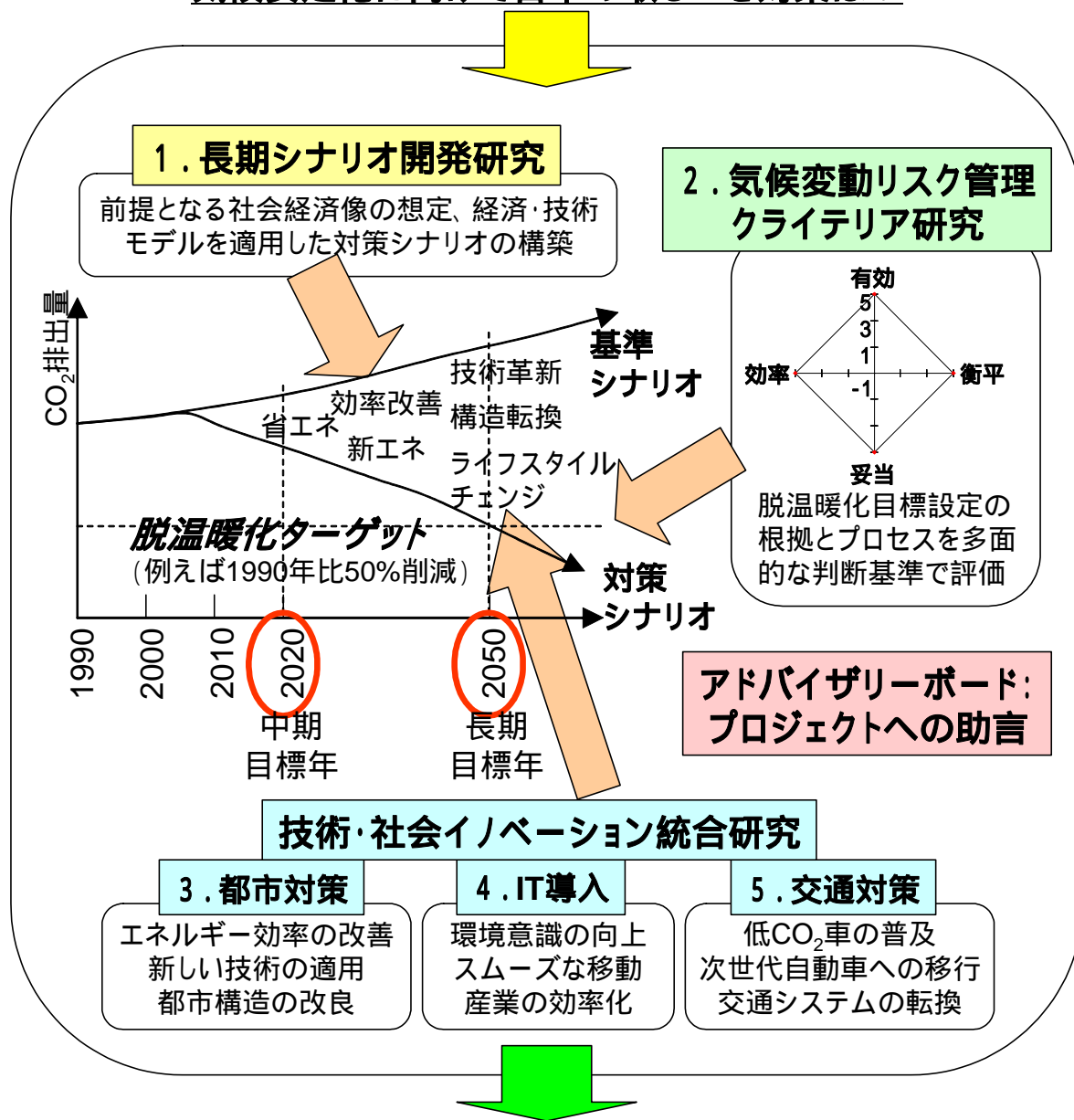
(4) 温暖化対策のための、技術、ライフスタイル、社会システムの統合的対策の研究
IT社会のエコデザイン -

(東京大学、日本電気(株)、富士通(株)、日本電信電話(株))

(5) 技術革新と需要変化を見据えた交通部門のCO2削減中長期戦略に関する研究

(独)国立環境研究所、筑波大学、早稲田大学、名古屋大学)

気候安定化に向けて日本の取るべき対策は？



長期にわたる継続した地球環境政策の方向性を提示